

# プレ公開III (公開授業研究会)

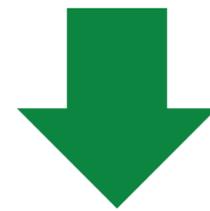
2025.07.03

三重大学教育学部附属中学校

## 研究テーマ

探究活動を中心としたカリキュラムを通して、  
生活や社会をきりひらく生徒の育成  
～ 生徒一人一人のウェルビーイングをめざして ～

前次研究の反省から、  
カリキュラムを考えていくにあたっては、**学校教育目標を軸に据えることが大事**



**学校教育目標**である

「豊かな創造性とたくましい実践力をもち生活をきりひらく生徒の育成」を捉え直すところからスタート。「**豊かな創造性**」「**たくましい実践力**」「**生活をきりひらく**」生徒の具体的な姿を考えていった。

## 学校教育目標の捉え直し

検討していくにあたっては、まず研究部と三重大学の村田准教授とで何度も会議を持ち、話し合いを重ねた。

まずは、「学校教育目標」が示す資質・能力とはどのようなものか、生徒の実態も踏まえて考えていった。しかし、それでは前次研究で育成したい資質・能力が2種類存在していたとうことが解消されないままになってしまう。



「学校教育目標」は抽象的なものでもあるため、まずは「学校教育目標」から、具体的な生徒の姿を捉え直し明文化する方がいいのではないか。

## 学校教育目標の捉え直し

1. 学校教育目標を「豊かな創造性」「たくましい実践力」「生活をきりひらく」の3に分ける。
2. それぞれについて、どのような力なのか、どのような姿なのかを検討、決定していった。「生活をきりひらく」を卒業時の姿として考えた。

捉え直しを行うにあたっては、研究部と三重大学の村田先生とで議論をし、案を作成。その後、全体研究会で全教員へと提案し、全員で「学校教育目標」や「生徒の姿」などについて話すことで最終決定をしていった。

表1 学校教育目標の捉え直し

	豊かな創造性	たくましい実践力	生活をきりひらく
解釈	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学んだ知識・技能を使って、生活や社会の問題発見・課題解決をし、一人一人のウェルビーイングの実現のために新しい価値を創造することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 失敗を恐れず、試行錯誤しながら、粘り強く目標達成と自己実現に向けて繰り返し努力し続けることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日常生活や社会の中で自分らしく生きるために、ときに他者と協力しながら問題発見・課題解決をしたり、真理の追究をしたりすることができる。</li> </ul>
生徒の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学んだ知識・技能を使って問題解決を図る</li> <li>● 学んだ知識・技能を組み合わせる</li> <li>● できる・できないにかかわらずアイデアを出してみる</li> <li>● 問題や課題を解決していくためのアイデアを出すことができる。→実行する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 実践する</li> <li>● 諦めない</li> <li>● 努力できる</li> <li>● 計画的に取り組める</li> <li>● 自分の位置を知っている(メタ認知)</li> <li>● 挑戦できる</li> <li>● 自ら行動する(主体的)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 前向きに生きる</li> <li>● 意欲的に行動する</li> <li>● 他者と協力する</li> <li>● 新しいアイデアを生み出す</li> <li>● ゼロからイチを生み出す</li> <li>● 良好な人間関係を築こうとする</li> <li>● 他の人とうまくやっていく(協働)</li> <li>● 自ら行動できる(主体的)</li> <li>● 社会の中で、自分を生かそうとする</li> </ul>

## 探究学習を中心に……

「探究的な見方・考え方を働かせ、……」（文科省、2022）

「探究的な学習の過程を一層重視し」（文科省、2017）



## 「探究的な学習」の重要性が増している

文科省が示す資質・能力である、

「何を理解しているか、ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）」

「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」

「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」

の三つの柱を意識して総合的な学習の時間、各教科等の目標や内容の整理が求められている。

総合的な学習の時間での探究活動や各教科の授業で探究的な学習を実践していくことで、「学校教育目標」の達成に近づいていけるのではないか。

### 生徒一人一人のウェルビーイング……

OECDは「経済的成長」だけでなく、「究極的に人々が心身共に幸せな状態（ウェルビーイング）」を作り出すことに移行している。

OECDの「ラーニングコンパス2030」では、個人と社会のウェルビーイングは「私たちののぞむ未来（Future We Want）」であり、社会のウェルビーイングは共通の「目的地」とされている。

今や世界規模で見ても、個人や社会のウェルビーイングを実現することが一つの目標となっている。

## 生徒一人一人のウェルビーイング……

総合的な学習の時間での探究活動で、生徒一人一人が主体となり活動に取り組むこと、各教科において見方・考え方を働かせて学習に取り組むこと、それらを生かして自身の生活をよりよくしていこうとすることで生徒一人一人のウェルビーイングにつなげていきたいと考えている。

## 総合的な学習の時間について

●学校教育目標をもとに、総合的な学習の時間の目標を設定

●探究活動を通して目標達成をめざす



1. 学年の発達段階に応じたカリキュラムの編成
2. 3年間を見据えた計画
3. 生徒の取組を見ながら方法を変更

	豊かな創造性	たくましい実践力
1年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決のための知識・技能を身につけ、物事を多角的な視点で考えることができる。</li> <li>自分の興味・関心は何なのかを見つけることができ、探究・追究していくための問いを立てることができる。</li> <li>身の回りにある事象に対して、疑問をもつことができる。</li> <li>問題を発見し、課題解決に向けて動くとき、学んだ「知識・技能」を使おうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の強みと弱みをわかっている。</li> <li>目標設定をし、達成に向けての計画を立てて取り組むことができる。</li> <li>できる・できないにかかわらず、行動に移すことができる。</li> <li>上手いかなかったときに、すぐに諦めることなく、粘り強く取り組むことができる。</li> </ul>
2年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決のための知識・技能を身につけ、解決に向けて多角的に柔軟性をもって対応していくことができる。</li> <li>問題を発見し、課題解決に向けて動くとき、学んだ「知識・技能」を使おうとしている。</li> <li>自分の興味・関心は何なのかを見つけることができ、探究・追究していくための問いを立てることができる。</li> <li>身の回りにある事象に対して、疑問をもつことができ、解決(解明)する問いにしていくことができる。</li> <li>自身のウェルビーイングを実現するためには、何が必要かについて考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の強みと弱みをわかったうえで、足りないものが何かを考え、強みに変えていく努力ができる。</li> <li>目標設定をし、計画的に実行に移すとともに、試行錯誤しながら目標達成に向けて取り組むことができる。</li> <li>課題解決、自己実現に向けて行動に移すことができる。</li> <li>上手いかなかったときに、どうすれば上手いのかを考えることができ、すぐに諦めることなく、粘り強く取り組むことができる。</li> </ul>
3年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決のために、身につけた知識・技能を必要に応じて取捨選択し、「生きて働く知識・技能」として使うことができる。また広い視野を持ち、新たな視点や多角的な視点で問題解決のためのアイデアを出すことができる。</li> <li>自分の興味・関心から、探究・追究していくための問いを立てることができる。</li> <li>身の回りや社会、世の中にある事象に対して、疑問をもつことができ、解決(解明)する問いにしていくことができる。</li> <li>確かな情報を集めることができる。そして、そこから自身の考えを構築できる。</li> <li>自身のウェルビーイングを明確にし、実現のために自分にできることを考え、行動に移すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分を分析し、強み弱みを理解したうえで、さらに自己を高めるために必要な方法を見出し努力することができる。</li> <li>目標を設定したうえで筋道を立てて論理的に考え、計画的に実行に移すとともに、試行錯誤を繰り返しながら、目標達成に向けて取り組むことができる。</li> <li>課題解決や自己実現に向けて、前向きに取り組んだり、行動に移したりすることができる。</li> <li>上手いかなかったときに、改善点を見出すことができ、すぐに諦めることなく、粘り強く取り組むことができる。課題の解決や、自分と他者、社会のウェルビーイングの実現に向けて、諦めずに努力し続けることができる。</li> </ul>

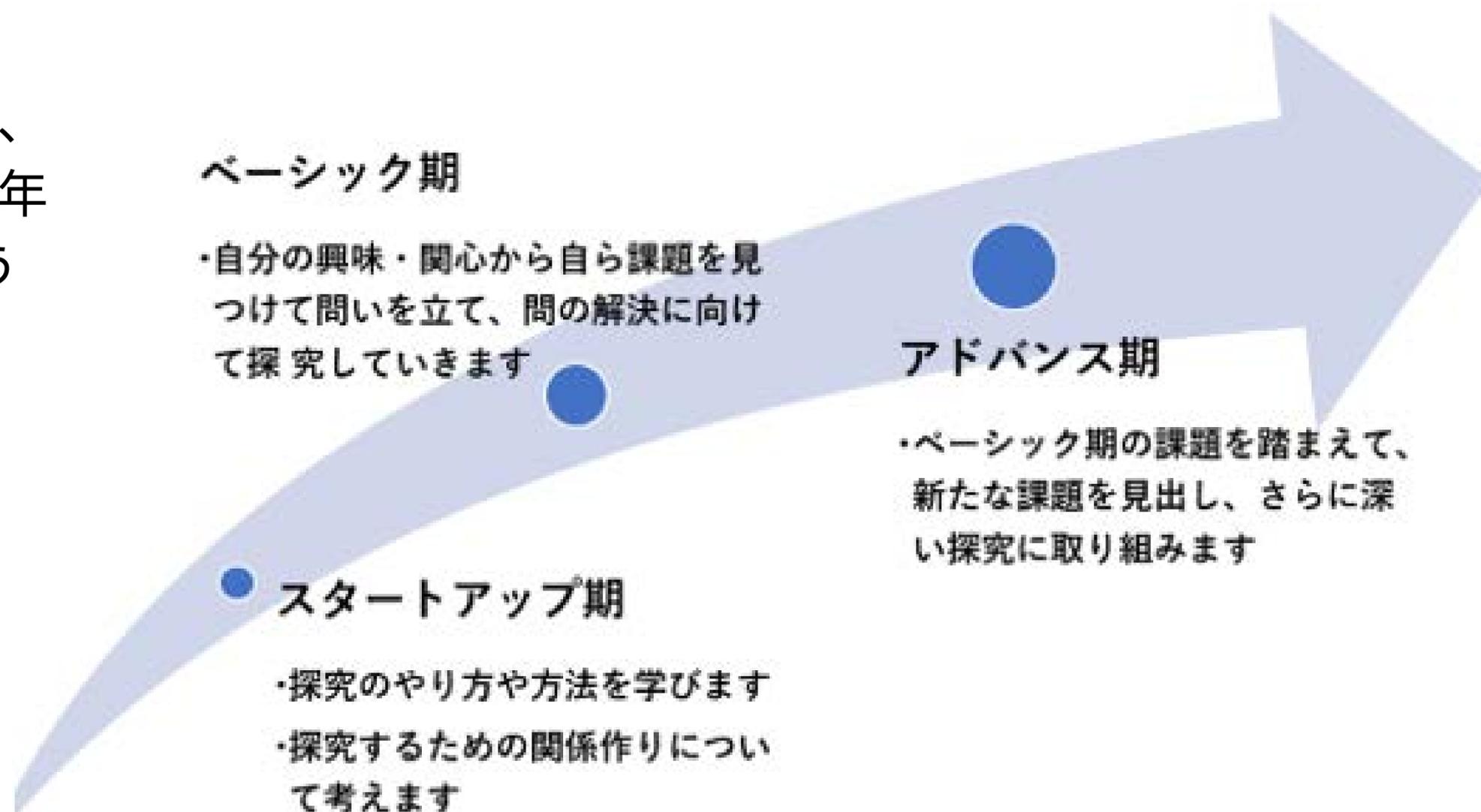
### 生活をきりひらく

- 自分の身の回りや社会にある問題に対して問題意識を持ち、解決に向けて行動したり、未だ解明されていないことに対してとことん追究したりすることができる。
- 社会を構成する一人であるとの自覚を持ち、当事者意識をもって行動することができる。
- ウェルビーイングの実現に向けて、どうすれば実現可能かを考え、前向きに取り組もうとする。
- 何か問題が生じたときに、解決に向けて、自ら行動を起こすことができる。
- 自ら問題を発見し、その解決に向けて行動することができる。
- 積極的に社会の中で活躍しようとして、自分の良さを生かしたりしようとしている。
- 広い視野で物事を捉え、考え、ときに他者と協力しながら自身のウェルビーイングと他者のウェルビーイング、さらには社会のウェルビーイングの実現のために、行動を起こすことができる。

## 総合的な学習の時間について

### 1. 学年の発達段階に応じたカリキュラムの編成

1年ごとの断続的な取組ではなく、1年生から段階的に学習を進め、3年間を通して継続的に活動を行うようにし、3年間での完成を目指した。



### 総合的な学習の時間について 2. 3年間を見据えた計画

年間指導計画を作成し、学校全体で「総合的な学習の時間」に取り組んでいけるようにした。

指導計画は作成しているが、生徒のようすから必要に応じて話し合いを持ち、授業などを進めている。

	4月	5月	6月	7月	8月・夏休み	9月
1年生	エンカウンター (仲間づくり)		教員による ラボの実施	研究に向けて 説明	はじめての 探究準備 教科自由研究	自由研究の発表
2年生	エンカウンター (仲間づくり)	研究を進める	研究を進める	研究を進める 今後の予定の確認	研究を進める	研究報告会 (中間発表) これまでの研究 をまとめて報告
3年生		個人研究 スタート				

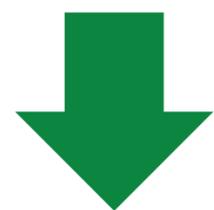
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年生	研究の手法 講座(映像) 最終発表見学(10月末)		校外学習 (町探検)	校外学習 まとめ	研究の問い立て (次年度に向けて)	
2年生	最終発表	振り返り レポート作成		研究の問い立て (次年度に向けて)	校外学習 (防災・平和)	研究の問い立て (次年度に向けて)
3年生						

## 総合的な学習の時間について

### 3. 生徒の取組を見ながら方法を変更

前次研究では、

SDGsをテーマに探究活動をしていたが…… 興味・関心が持てない  
グループで活動していたが…… 他人任せ、活動に責任が持てない



本次研究で

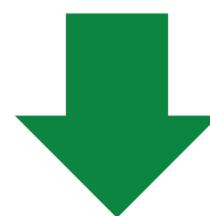
生徒たちの興味・関心から問いを立てることにしよう  
グループでの活動を個人にしよう

それでも、やはり  
課題はある……

## 教科の探究について

学校教育目標と各教科の目標の接点を探るために、**教科の特性を踏まえた「豊かな創造性」「たくましい実践力」とは何か、「生活をきりひらく」つまりは、社会をよりよくしていくとは一体どういうことなのか**について議論。

各教科の学習と学校教育目標、総合的な学習の時間との関連性も見出しやすくなるのではないか。



教科でも探究的な学習を意識し、それぞれの教科の本質に迫る学びを実現していかなければ、総合的な学習の時間と各教科の効率的・効果的な往還にはつながらない。

## 教科の探究について

各教科の授業では、

- 「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）」
- 「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」の育成）」
- 「どのように社会・世界と関り、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養）」

を意識して授業を展開していくことで、「生活をきりひらく」生徒を育成することにつながり、総合的な学習の時間のよりよい学びにも接続できると考えている。

## 本日の公開について

1年生では、「自分たちの学校」をテーマに授業を行います。探究をしていくためのスタートアップ期の授業です。生徒がどのように授業に取り組んでいるのかを見ていただければと思います。

2, 3年生は、これまでの探究活動についての中間発表を行います。どのような問いを立て、どのように取り組んできたのか、そして、今後どのように活動していく予定なのかを発表していきます。生徒たちの活動のようすを見ていただければと思います。

13:40～14:30

総合的な学習の時間【全学年・全クラス公開】

14:50～16:45

全体研究協議会【四附連携教室】

※授業終了後は、ここ四附連携教室にお戻りください。